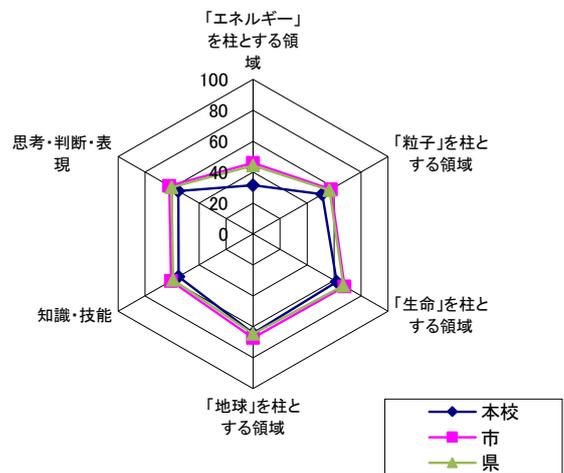


宇都宮市立宝木小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	31.6	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	51.3	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	62.0	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	64.2	67.2	64.6
観点	知識・技能	55.3	60.8	59.2
	思考・判断・表現	55.4	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均と比べて低い。</p> <p>●並列つなぎの回路に流れる電流の大きさが乾電池ひとつのとときと同じであることについて理解しているかどうかをみる問題では15.3ポイント下回っている。</p> <p>●「電気のはたらき」における簡易検流計の針のふれ方から分かることを答える設問の正答率は、県の正答率を14.1ポイント下回っている。</p> <p>●並列つなぎの名称を答える設問の正答率は、51.8%で県の平均正答率を8.7ポイント下回っている。</p>	<p>・エネルギーを柱とする領域では、回路のつなぎ方の違い(直列・並列)や、つなぎ方による電流の大きさや向きの違いなど、基本的な知識・技能の定着に課題が見られる。実験や観察を通して理解を深めるとともに、身の回りの事象との関連を図ることで、基礎的・基本的な知識の定着を図れるようにしていく。</p> <p>・図や文章から読み取り、答えを導き出す設問で、無解答の児童が多く見られる。授業中に文章を読み取る活動を充実させて、題意を読み取る練習をしていく必要がある。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均正答率と比べて5.3ポイント低い。</p> <p>○閉じ込めた空気の状態についての理解をみる設問では、正答率が85.7%で、県の平均と比べると1.6ポイント上回った。</p> <p>○空気の温まり方と身の回りの現象を関連付けて理解しているかどうかを見る設問では県の平均と比べると5.6ポイント上回った。</p> <p>●実験の結果からあわの正体を推測する問題は、17.9%と県の平均正答率を11.9ポイント下回っている。</p>	<p>・粒子を柱とする領域では、日常生活と理科のつながりに意識を高めていきたい。実験や観察をした際には、考察や結果の確認をするだけでなく、グループで話合う時間を取り、意見を交換する機会を増やすことで、考えを深めたり、自分の言葉でまとめたりして、書く力や考えをまとめる力を高めていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、58.7%と県の平均正答率と比べて4.9ポイント低い。</p> <p>●「ヒトの体のつくりと運動」の筋肉のはたらきを答える設問では、53.6%と県の平均正答率と比べると、8.6ポイント下回っている。</p> <p>●夏の植物の成長についての理解をみる設問では、75.0%と県の平均正答率と比べると5.5ポイント下回っている。</p>	<p>・生命に関する領域では、気温と生物の行動の関係性や成長や活動の様子など、いくつかの知識をつなぎ合わせる力に課題が見られる。学習内容と日常生活の関連を重視した活動を意図的に設定することで、習得した知識・技能を活用して問題を解決する力を高めていく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は64.2%で、県の平均と比べて0.4ポイント低い。</p> <p>○気温の測り方が身についているかをみる設問では、正答率は68.8%で、県の正答率を8.5ポイント上回っている。また、天気と一日の気温の変化の関係について記述する問題でも県の正答率を6.9ポイント上回っている。</p> <p>●星の色についての理解をみる設問では、正答率が48.2%と県の正答率を7.5ポイント下回っている。また、星の動きや星座の並び方についての設問で5.6ポイント、月の動きを方についての設問で5.5ポイント下回っている。</p>	<p>・地球を柱とする領域では、気温に関する設問で正答率が高く、日常生活の中で気温に関心を持っていることがうかがえる。天体や宇宙に関する領域でも、知識の定着は見られているが、読み取ったことや考えたことを記述して答える問題の正答率が低い。実験や観察を通して、自分の考えを書いたり、まとめたりする機会を設けて、自分の言葉で表現する力を付けていけるようにしていく。</p>